

背景・趣旨

- 少子高齢化、人口減少がますます進む中で、福祉・介護分野においては慢性的な人材不足への対策が求められ、「**多様な人材の参入促進**」に基づく施策や取り組みが各地ですすめられ、並行して**次世代への啓発、キャリア教育**も重要視されています。
- 高校の家庭科では、「人の一生と家族・家庭及び福祉」を支柱に、「高齢者との関わりと福祉」「共生社会と福祉」など、幅広く福祉について学習する機会が設定されており、学内だけでなく、社会資源（学外の外部講師）を活用しながらすすめています。



認知症の高齢者と介護職 迫真の寸劇

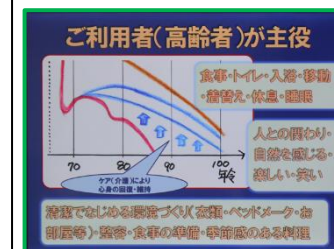
事業の特徴・内容

1. 出張介護授業の共同企画、共同実施

高校の「社会福祉基礎」（選択科目）の一環で行われる「出張介護授業」は、「高校」と近隣の「法人・事業所」、そして「福祉人材センター」の三者が集い、**互いに目的等を共有**しながら、**一体となって企画**を立てています。また、「法人・事業所」のスタッフに当該高校の卒業生がいれば、講師に加わってもらっています。

2. 目的等の共有

「社会福祉基礎」の学習目標である「**社会福祉に関する基礎的な知識を習得させ、現代社会における社会福祉の意義や役割を理解せるとともに、社会福祉の向上を図る能力と態度を育てる**」を基調に、福祉人材センターでは、福祉・介護の仕事の社会的必要性を伝え、生徒の進路選択に生かしてもらうこと、また、突き詰めて人と人、人と社会の関わりの中で、**自分のことを正しく知ること**と、当事者理解（≡他者理解）を重視し、この事業を地域福祉の推進のもとに進めています。



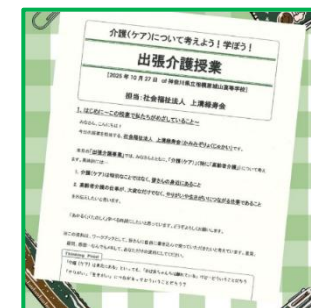
高校生に合わせた
オリジナルのプログラム

おもな効果

生徒のアンケートからは「否定じゃなくて、共感が大切」「グループワークをした時に様々な面から見ることの重要性を知ることができた」といった学習効果が得られ、また、認知症高齢者や介護の仕事に対するイメージが授業前と比べて変わったという声も挙げられたことは、「法人・事業所」にとって、最大の成果と思います。

メッセージ

定型的で一方向的なやり方ではなく、毎回、「高校」と「法人・事業所」は変わり、調整を重ねながら、出張介護授業の準備はコツコツと進めています。最後に、「介護について、今の自分たちからできること、考えられることがたくさんあるなと思った」「話し合ったことが実践できそうだな」「知らなかったことがたくさんあって良かったです」という素直な高校生の気持ちに触れた時、福祉人材センターがすすめてきた出張介護授業の価値がそこに示されていると感じています。



Instagram で情報発信